学校地域ＷＩＮ－ＷＩＮプロジェクト　プログラムシート

会社名	株式会社LUYL
プログラム名	≪講演とワークショップ≫ **「当たり前」を疑ってみよう。～みんなが暮らしやすい社会をデザインする～** 靴づくりの実例から、身近な不便や生きづらさを発見し、違いを認め合いながら、誰もが暮らしやすい社会をつくるアイデアを考える参加型プログラム。
対象生徒	1年生～3年生
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの所要時間実施場面	５０分×（　２　）コマ　（100～120分程度）授業／クラス単位、学年単位

プログラムのねらい

多様な立場や視点から社会を見つめ、身近な環境や仕組みにある課題を発見する。違いを理解するだけでなく、誰もが自分らしく暮らせる社会に向けて、自分たちにできる工夫や行動を考える。

授業を通して考えてほしいこと
- 自分にとっての「普通」は、みんなにとっての普通だろうか？
- 誰かが不便だと感じていることを、社会の工夫で変えられないだろうか？
- 誰もが使いやすいモノや仕組みをつくるには、どんな視点が必要だろう？

プログラムの内容

私たちが普段、何気なく使っているモノやサービス、利用している施設は、本当に誰にとっても使いやすいのでしょうか。

下肢装具を使う生活の中で、好きな靴を履けないという経験をしたことから、自らおしゃれな靴を開発した実例を紹介します。

講演の後は、身の回りにある「当たり前」を見つめ直し、誰かにとっての不便や生きづらさを、社会をよりよくするヒントとして捉えるワークに取り組みます。

ワークショップの例
1. 身近な場所やモノにある「使いにくさ・不便さ」を探す。
2. 誰が、どんな場面で困るのかを想像する。
3. みんなが使いやすくなるアイデアをグループで考える。
4. アイデアを共有し、社会を変えるためにできることを考える。

学校側へご提供いただけるもの

下肢装具を使用する自身の経験から生まれた靴の開発事例を通して、身近な不便や社会にある見えない壁について考える講演とワークショップ。多様な立場や視点から課題を発見し、誰もが自分らしく暮らせる社会に向けたアイデアを考える機会を提供する。

学校側に整えてもらいたい設備・環境

・映像機器（パソコン・プロジェクター・スクリーン）
・音響機器（ワイヤレスマイク）が使用できる場所。

学校側への依頼事項

・講演やWSの細かい内容については先生方と事前に打合せさせていただきます。
・感想などのフィードバックいただきます。
・左片麻痺の障害があるため、校内のバリアフリー状況、駐車場の有無について事前に伺いたいです。

企業のＷＩＮ

自社の事業や商品開発、社会課題の解決に取り組む実践例を次世代に伝え、多様性やインクルーシブな社会づくりへの理解を広げる。また、生徒との対話を通して、これからの社会や暮らしに必要な視点を得る機会となる。

学校のＷＩＮ

生徒が自分にとっての「当たり前」を見つめ直し、他者の立場や多様な価値観への理解を深める。身近な課題を発見し、仲間と協力して解決策を考えることで、主体性や探究力を育み、よりよい社会づくりに自ら関わる意識を高める。

学校負担費用	可能であれば交通費

連絡先	部署名	株式会社ライル 広報部		
	担当者	布施田	ＷＥＢ	https://manaolana.jp/
	電　話	090-2636-1468	e-mail	info@manaolana.jp